

## 昭和36年 2月 県議会定例会一般質問（抜粋）

（中山悦三議員）

### 質問要旨

県内におきますところの社会福祉施設は全部で276箇所ございますが、その収容者は約2万人でございます。このうち半数に近いところの数字は、やはり民間において行われているのでございます。これに従事する人たちの職務は、社会的に非常に重要性を持っておりますにもかかわらず、決して恵まれたところの待遇は受けていないのでございます。

私は、試みに県内の私立、いわゆる民間の経営いたしておりますところの保育所と、公立保育所の保母さんの実例をとって見ますと、昭和35年11月現在におきまして、県下公立保育所116箇所、保母さんが569名で平均1ヶ月の給料が11,415円でございます。私立の保育所におきましては、90箇所438名、平均の給料が7,984円ということで、いわゆる3,500円の差がございます。

高等学校を卒業して、さらに保育専門学校で学んできた専門職でありながら、5ヶ年勤務して7,500円というのが私立保育所では普通でございます。昔は篤志家が私財を投じ、あるいは社会的協力を得て行われてきた救済事業とか、慈善事業家が同じ志を持つところの奉仕者、すなわち保母の協力によって経営され、報いを望まず、また貧しくとも耐えてきたのですが、現在の社会事業は、国家社会の責務であると法律にもはっきりと定められており、働く者には当然人権を認め、生活の安定をせしめるべく、これに報いなければならないのであります。

国家の福祉を受ける権利を有するが故に守られている子どもたちが、保母の苦勞と犠牲を持ってなされるべきでは断じてないと思います。

こうした民間施設に従事する者に、この際思い切った措置を私はすべきではないか、こう思うのでございますが、知事にご意見をお伺いいたすものでございます。

（斎藤寿夫知事）

### 答弁要旨

民間の各施設に働く人たちの処遇の問題であります。これもまた仰せのとおりであります。従いまして、県におきましてもできる限り補充いたす意味で各種の施設、従事者に色々な助成をいたしております。

何といたしましても、国がこれを措置するという建前になっております。しかも、国の基準単価が低いというところに結局困難があるのであります。国におきましても、順次これを是正していく態勢になっております。

本年も色々の紆余曲折はありましたが、前進いたしており、若干の給与の改善をいたして参っております。私ども、なお、それによって足らざるところを補うという意味において、この度、若干の研修等をいたしております。

また、民間と公共等になお差がありますこともご指摘のとおりであります。これらは順次改善し、制度自体の万全を期さなければならぬと同時に、私どももでき得るだけの助成をいたしていきたいとかように考えております。

## 昭和42年 2 月 県議会定例会一般質問（抜粋）

（山下義次議員）

### 質問要旨

民間社会福祉施設の振興についてであります。

民間社会福祉事業に従事しておられる方々は、社会福祉事業に対する深い理念と信念により、日夜を分かたず努力されておるのでありまして、その姿にはただただ感服いたすものであります。しかしながら、これら民間社会福祉施設の整備、あるいは従事者の処遇等の問題につきましては、いまだ国における援助措置のみでは不十分であると考えるものでありまして、この点、今後県といたしてどのように対処され、いかなる施策を講ぜられるのかお尋ねいたします。

（竹山裕太郎知事）

### 答弁要旨

社会福祉の問題については、今後あくまで前向きに、いろいろ各界各層のご意見を聞いてきめ細かく努力をいたして参る考えであります。

## 昭和43年 2 月県議会定例会における 竹山裕太郎知事の行政説明（抜粋）

社会福祉行政の推進上、民間社会福祉施設の果たしている役割はきわめて大きいものがありますが、これら民間社会福祉施設においては、従事者を確保することが最大の課題となっておりますので、その確保対策の一環として、退職基金造成事業に対し、今後5ヶ年計画をもって2億円の基金造成に県は1億円の助成をすることといたしました。

## 昭和48年9月 県議会定例会一般質問（抜粋）

（清水 俊議員）

### 質問要旨

民間社会福祉施設の最大の難関は、人手不足であるといわれております。当局も承知のことでありましょうが、施設に働く人たちは子どもに対する愛情に生きがいを持ち、悪条件に甘んじて己の私生活を犠牲にしている人が多いということをお聞きされております。したがって、この人達の退職された後の補充も、現在の世相では他産業より余程の条件、補償がないと困難でありましょう。このため、施設の近代化、労働力の合理化、さらに、県の助成等による処遇と身分保障等を考えてやるべきではないかと思っております。

（竹山裕太郎知事）

### 答弁要旨

民間社会福祉施設で一番大事な問題は、人を安定して確保していくことであり、私もその点が最初に気になった。ことに県立、国立は国なり県なりが責任を持ちますが、いわゆる法人、民間施設というものに対する、私が最初に見たときの人的な補償といいますか、制度というものが極めてないに等しい。これじゃあいかなと、県が願う以上は、その職員の身分の安定策というものを第一に取り上げなきゃあならぬということを感じましたから、その基金制度というものを発足しました。思い切った助成をする。それが今、第二期目の拡張計画に入っております。これを完成すれば、まあ大体皆さんの希望に合うんですが、しかし、これでおしまいという訳にはいかない。物価も上がるし、色々条件は拡大をいたしておりますから、第二次に続く第三次計画を進めざるを得ないと、私は今思っております。まだ第二次が済んだ訳じゃありません。

そういう点で、現在の法人民間施設の職員の身分安定策というものには見通しが立っております。あとは、要するに新しく増えていくところ、あるいはお話のように補充の人手問題というものは、これはそれぞれ苦心のいるところだと思っておりますが、やはりその地域の連帯感に基づいて考えてもらうということが、一番堅実な方法だと思っております。